

## 【概要】グローバル・スタートアップ・キャンパス(GSC)ワークショップ

開催日時: 令和6年11月11日(月) 10時00分~11時30分

参加者数: 対面(招待制):51人    オンライン:約600名

内 容: ○ロバート・ランガー(マサチューセッツ工科大学(MIT)教授)と伊藤 穰一(GSC  
構想推進室エクゼクティブ・アドバイザー、千葉工業大学学長)による対談  
○城内科学技術政策担当大臣より開会ご挨拶  
○フェルシング在日米国大使館経済・科学担当公使ご挨拶

テ ー マ: Scientific entrepreneur, translation, university, startup

概 要: 日本のスタートアップ・エコシステムの現状と課題について、米国の状況と  
比較し、また、GSC 構想の取組みや、MIT のロバート・ランガー教授が  
GSC 構想に期待することについてディスカッションした。

主な発言内容:

【ロバート・ランガー氏】

- VC なしで起業できるのであればそうすべきだが、特にバイオテクノロジーでは相当なリソース(資金)が必要である。また、VC は商業的な才能を見つけることにも長けている傾向がある。
- 特許は重要。自らの特許について大学の TLO の力も借りて選別している。大学の TLO は、ある時点で法的な専門家集団からビジネスの専門家を採用するように変化があった。

【伊藤穰一氏】

- 米国の主な成功要因はエコシステムと人材。日本のエコシステムにおける欠陥は知的財産を実用化する能力にあり、研究を収益化する能力を持つ経験豊富な商業能力が不足しているのではないかと。
- もっと実験(挑戦)し、もっと失敗すること、競争を生み出すこと(日本的な調和を求める姿勢は長所でもあり短所でもある)が必要。

### Robert S. Langer(ロバート・ランガー)

マサチューセッツ工科大学(MIT)化学工学科・生物工学科 教授



ロバート・ランガー教授は、MIT教授職の最高位であるMIT Institute Professor 9人のうちの1人。1600以上の論文を発表し、1400件以上の国際特許を取得または出願している。MITランガー研究室は、年間1000万~2000万ドルの研究資金と100人以上の研究者を抱える世界最大のバイオエンジニアリング研究室である。また、バイオテクノロジーベンチャー企業モデルナの共同創業者としても知られる起業家である。